

平成19年度イタリアンライグラス優良品種選定試験

柏原 裕

要約

イタリアンライグラス 11 品種の特性を比較した。生育期間中の気温は、冬季から春季にかけて平年よりやや暖かで順調に発育したが、出穂前の寒さと4月初旬の寒波により極早生種の一部に影響が出た。降水量は播種時に少なく、冬季は平年並み、春季はやや多かった。出穂始期は前年に比べ1番草の全品種で3~17日早く、2番草の早生種も1~3日早く、中晩生種で6~10日遅くなった。

極早生種 出穂始期は「シワスアオバ」が最も早かった。収量は「ミナミアオバ」が多かった。倒伏は全てで見られなかった。

早生種 出穂始期は1番草で「タチマサリ」がやや早かった。合計収量も「タチマサリ」が多かった。倒伏はワセアオバで少し見られた。

中・晩生種 出穂始期は1番草で「ジャイアント」が早かった。合計収量も「ジャイアント」が多かった。倒伏は全てで見られなかった。

緒言

本県に適するイタリアンライグラス優良品種の選定を行う。

試験方法

1. 試験期間
昭和57年より継続、
比較品種は原則として3年間。
2. 圃場
奈良県農業総合技術センター
高原農業振興センター内

(標高 340 m、年平均気温
13.2℃)
3. 供試品種
表1のとおり
本県奨励品種7品種、
対照品種4品種

表1. 供試品種 (*は試験実施時の奈良県奨励品種)

早晩性	品種名	倍数性	供試年次		
			H17	H18	H19
極早生	ミナミアオバ*	2倍体	○	○	○
	ウヅキアオバ*	2倍体	○	○	○
	メリット	2倍体	○	○	
	さちあおば	2倍体	○	○	○
	シワスアオバ	2倍体			○
	ワセアオバ*	2倍体	○	○	○
早生	タチマサリ*	2倍体	○	○	○
	ワセユタカ	2倍体	○	○	○
	ナガハヒカリ*	4倍体	○	○	○
中・晩生	ジャイアント*	4倍体	○	○	○
	アキアオバ*	4倍体	○	○	○
	ジャンボ	4倍体	○	○	○

4. 栽培方法

試験区：1区面積 6 m² (=3m×2m) 3反復乱塊配置

播種日：平成18年10月17日

播種量：2倍体品種 150g/a 4倍体品種 250g/a

播種法：条播 条間40cm

施肥量：堆肥 400 kg/a 苦土石灰 2 kg/a 溶リン 8 kg/a

	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	(kg/a)
基肥	0.29	0.36	0.36	
追肥(各刈取毎)	0.70	—	0.90	

刈取期：出穂期刈を基準とした。

5. 調査項目

「近畿・中国地域 牧草・飼料作物 品種・系統選抜試験実施に関する申し合わせ(昭和57年3月)」および「牧草系統適応性検定試験実施要領(改訂2版)」に準じて調査した。

結果および考察

1. 生育調査(発芽～出穂前)

本年度も昨年と同じ栽培地で実施した。従来の圃場に比べ勾配があることなどから、一部の区画で発育不良が見られたがそれ以外の区画ではいずれの品種も発芽および初期生育は良好であったが、春先の寒波により極早生種の一部に耐寒性に問題があった。その他の品種は順調であった。

2. 生育調査(出穂～刈取)

具体的数字は表2-1、2-2のとおりである。

(概要)

a. 極早生群

出穂始期は前年より7～17日早かった。その中で「シワスアオバ」が早く「ミナミアオバ」「さちあおば」が遅かった。倒伏は全てに見られなかった。

「シワスアオバ」で耐寒性、耐雪性に問題発生あり。

b. 早生群

1番草の出穂始期は前年より5～8日早かった。その中で「タチマサリ」がやや早かった。2番草の出穂始期は前年並みであった。倒伏は「ワセアオバ」で見られたが他は見られなかった。

c. 中・晩生群

1番草の出穂始期は前年より3～10日早かった。中でも「ジャイアント」が早かった。

2番草の出穂始期は前年より7日遅かった。前年より全てで遅かった。倒伏は全てで見られなかった。

表 2-1 生育調査 (1 番草 出穂～刈取)

早晚性	品種名	出穂始期	刈取日	刈取時 出穂程度	刈取時 草丈	刈取時 倒伏程度
		月/日	月/日	1～5 無～極多	Cm	1～5 無～甚
極早生	ミナミアオバ	4/ 2	4/13	3	58	1
	ウヅキアオバ	3/29	4/13	4	57	1
	さちあおば	4/ 2	4/10	3	60	1
	シワスアオバ	3/27	4/ 6	3	47	1
早生	ワセアオバ	4/16	4/24	3	67	2
	タチマサリ	4/13	4/24	4	74	1
	ワセユタカ	4/19	4/27	4	84	1
中・晩生	ナガハヒカリ	4/22	5/ 7	4	104	1
	ジャイアント	4/21	5/ 7	5	113	1
	アキアオバ	4/28	5/ 7	3	95	1
	ジャンボ	4/29	5/ 7	3	91	1

表 2-2 生育調査 (2 番草 出穂～刈取)

早晚性	品種名	出穂始期	刈取日	刈取時 出穂程度	刈取時 草丈	刈取時 倒伏程度
		月/日	月/日	1～5 無～極多	Cm	1～5 無～甚
早生	ワセアオバ	5/ 9	5/15	3	65	1
	タチマサリ	5/ 6	5/15	4	62	1
	ワセユタカ	5/ 9	5/15	3	55	1
中・晩生	ナガハヒカリ	5/27	6/ 7	5	112	1
	ジャイアント	5/25	6/ 7	5	100	1
	アキアオバ	5/29	6/ 7	4	100	1
	ジャンボ	5/27	6/ 7	4	101	1

3.収量調査

具体的数字は表 3 のとおりである。

(概要)

a.極早生群

乾物収量は前年より多かった。その中で「ミナミアオバ」(52.4kg/a)が最も多く、「ウズキアオバ」(27.0kg/a)が最も少なかった。

b. 早生群

1 番草の乾物収量は前年並みであった。その中で「ワセユタカ」(33.5kg/a)が最も多く、「ワセアオバ」(26.1kg/a)が最も少なかった。2 番草は前年より更に少ない収量で、「ワセアオバ」(17.7kg/a)が最も多く、「ワセユタカ」(9.7kg/a)が最も少なかった。1 番草と 2 番草の収量の合計は「タチマサリ」(46.6kg/a)が最も多く、「ワセユタカ」(43.2kg/a)が最も少なかった。

c. 中・晩生群

乾物収量は 1 番草で「ジャイアント」(72.5kg/a)が最も多く、「ジャンボ」(29.2kg/a)が最も少なかった。2 番草では「ナガハヒカリ」(43.7kg/a)が最も多く、「アキアオバ」(41.5kg/a)が最も少なかった。1 番草と 2 番草の収量の合計では「ジャイアント」(115.5kg/a)が最も多く、「ジャンボ」(70.8kg/a)が最も少なかった。

表 3 収量調査

早晩性	品種名	1 番草		2 番草		合計	
		生草収量 kg/a	乾物収量 kg/a	生草収量 kg/a	乾物収量 kg/a	生草収量 kg/a	乾物収量 kg/a
極早生	ミナミアオバ	188	52.4			188	52.4
	ウヅキアオバ	103	27.0			103	27.0
	さちあおば	154	45.5			154	45.5
	シワスアオバ	139	31.9			139	31.9
早生	ワセアオバ	122	26.1	131	17.7	253	43.8
	タチマサリ	121	29.7	141	16.9	262	46.6
	ワセユタカ	141	33.5	74	9.7	215	43.2
中・晩生	ナガハヒカリ	263	56.3	309	43.7	571	100.0
	ジャイアント	321	72.5	266	43.0	587	115.5
	アキアオバ	197	37.7	300	41.5	497	79.2
	ジャンボ	159	29.2	311	41.6	470	70.8

参考文献

- 近畿中国地域試験研究打合せ会議草地飼料作部会：近畿・中国地域 牧草・飼料作物品種・系統選抜試験実施に関する申し合わせ；2～5(1982)
- 農林水産技術会議事務局ほか：牧草系統適応性検定試験実施要領(改訂 2 版)；5～7(1990)
- 竹中ら：奈良県畜産技術センター研究報告第 31 号；4～6(2004)
- 榎堀：奈良県畜産技術センター研究報告第 32 号；13～16(2005)
- 柏原：奈良県畜産技術センター研究報告第 33 号；16～19(2006)